

記入日	年度当初 7月 1日 / 年度末 2月 27日
氏名	古川 礼子
子ども学科	准教授
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

1. 責務 (何を行っているのか)

①担当科目

担当科目名	学科	学年
保育者論	子ども	2年
保育の計画と評価	子ども	2年
保育内容(言葉)	子ども	1年
保育原理	子ども	1年
保育実践演習	子ども	2年
児童文学	子ども	2年
教育実習指導(幼)1子	子ども	1年
教育実習指導(幼)2子	子ども	2年
教育実習(幼)	子ども	2年
教育実習II	子ども	2年
絵本の世界I(子)	子ども	1年

②担任制度

担任(1年生)	有	担任(2年生)	有
---------	---	---------	---

③委員会活動

運営協議会		SD委員会	
研究倫理委員会		地域連携委員会	
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	
図書委員会	委員	保育・教育実習運営委員会	委員
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会	委員	教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD委員会		授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	委員
不正調査委員会		衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長	担当	子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無
助成者	

資金名	
研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材育成
個人の教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士や幼稚園教諭の職務に必要な専門的知識や技能を習得させながら、模擬保育の中でも振り返りを重視し、多面的に物事を考える力や自ら改善点を見出す力を育成する。 ・計画どおりにいかない時こそ、子どもの姿や状況に応じて、臨機応変に対応できる実践力の向上を図る。 ・子どもの人権を尊重し、子どもの心の声を聞き取り、一人一人の子どもの最善の利益を追求する保育者を養成する。 ・保育者は、組織やチームで協働していくことが必要不可欠と考えることから、グループワーク等を通し、コミュニケーション力の向上を図る。 ・多様な背景をもつ子どもの保護者支援について、家庭背景の多様性や子どもの発達や特性の理解などについて、基礎知識を高めることを通して個別対応力の向上を図る。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者は人を育てる仕事であることから、まずは、自身の自己肯定感や自尊感情が高まる取り組みとして、授業内でもワークやグループ活動の機会を多く取り入れた。自分の意見として胸を張って表現し、相手の意見も聞き入れながら、グループとしての成果や課題を見出せるよう指導や支援に努めた。 ・模擬保育時の振り返りシートを活用することで、友だちの意見や改善点に気づく機会となり、保育の引き出しを増やすことにつながった。 ・一人一人の子どもの成長過程に、家庭環境や社会背景が大きな影響を及ぼす現実があり、園が地域の子育て支援の拠点であることも認識しながら、乳幼児理解が図れるよう指導した。
授業以外（学生支援等）	<ul style="list-style-type: none"> ・「ぶんぶんひろば」の実践において、計画や準備段階から、学生の意見を積極的に表現できる場をもち、一人一人の良さが発揮できる活動内容や役割を学生自身が決定できるよう指導や支援に努めた。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	<p>模擬保育では、実際の保育の場面を想定しながら指導方法を試すことで、保育者としてのスキル向上が養われた。また、遊びを通して、予期していない状況やトラブルが発生することもあり、これらに対処する力や柔軟さを身に付けることができた。</p> <p>グループワークでは、日常で交流が見られない学生同士も、役割を決めたり協議を繰り返したりして、グループ毎に成果や課題をまとめ、発表に至る過程の中で、コミュニケーション力の向上が図れた。</p>
授業以外（学生支援等）	<p>グループで効率よく作業を進めるためには、時間配分を考慮し、管理していく能力が必要になる。「グループ内で出た意見をまとめ、3分で発表する」等の課題を出すと、はじめはどのグループもうまくいかず四苦八苦の姿が見られた。しかし、授業内でそのような経験を増やしていくと、時間に対する意識が高まり、タイムマネジメントのスキルアップにつながった。時間の管理は、他の多くの場面でも活用できる大切な要素であると感じている。</p>

5. 目標（今後どうするか）

授業	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者を目指す学生の意欲を持続向上させながら、倫理観に裏付けされた専門的知識・技能を身に付け、保育現場で求められる実践的指導力のある保育者を養成する。 ・保育者としての責務を理解し、他者と協働・連携し、保護者の支えとなり、子どもの最善の利益を追求できる保育者を養成する。
----	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・修得単位が少ない学生や欠席の多い学生を早期に見つけ、意欲をなくさず、一人一人が充実した学生生活を送り成長と自立に向けての学習支援や生活支援を行う。
授業以外 (学生支援等)	<ul style="list-style-type: none"> ・滋賀県による保育士支援会議・保育士人材確保部会、保育協議会等の会議に参加し、得られた最新の状況を学生支援や就職相談等に活かす。 ・担任制、個別支援、学科内連携において学生を支援する。

6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上